

# 漢字の学習

スロベニア（非漢字圏の国として）と日本の漢字教育の比較

クラウディヤ・クランツ

群馬大学

社会情報学部

14687002

# インデックス

1.	背景と目的.....	3
2.	研究方法.....	3
3.	スロベニアと日本の漢字授業への洞察.....	4
3.1	日本の小学校：二年生、三年生と五年生の漢字授業の参観.....	4
3.2	スロベニアの大学の第一学年.....	8
4.	日本の小学校、スロベニアの大学の教員への私の予測とインタビューの分析.....	8
5.	今回研究で明らかになったこと.....	17
7.	参考文献.....	19

## 画像のインデックス

写真 1	空書き.....	5
写真 2	漢字の色分け.....	5
写真 3	学生は紹介する漢字.....	6
写真 4	スロベニアと日本の漢字リストの比較.....	11

## 1. 背景と目的

日本に来る前、スロベニアでは大学生が漢字を習得する際に、苦勞していることに気づいた。非漢字圏の学習者として漢字を学ぶことは難しい。インターネットなどで調べてみたら、漢字教育はスロベニアと異なることに気づいた。

日本に来てから、特に、漢字の教育と習得について興味を持つようになった。調べてみると、スロベニア（非漢字圏の国として）の初級者の漢字リストが日本の低学年（具体的に一と二年生）の小学生の習得する漢字と違うことに気づいた。そこで、この違いが何に起因するのかに興味を持ち、スロベニアと日本、言い換えると非漢字圏の日本語学習者と日本語母語話者が漢字を習得する際にどのような点が困難だと感じているのか、教授者側はどのような点に留意して指導を行っているのか、両者の使用する教材のシラバスの差は何に起因するのか等を調査することにした。

そこで、日本の小学校に参観し、漢字教育を観察したら、漢字の学習と習得の効果的な仕方を見つけて、それについてスロベニアで紹介すると思った。少しでも、大学生達の漢字の学習における支援を探して、勉強を容易して、先生方にも授業で取り入れることが出来る漢字の効果的な学習ストラテジーを教えたいと思った。

## 2. 研究方法

日本とスロベニアの漢字教育の違いは、1) 学習者の年齢（知識水準、読む文章の質の違いなどを含む）、2) 学習者の生活環境、3) 教師の意識（授業の進め方、教材、シラバスなどを含む）によっていると考えました。

このうち、3) は教育者、教育機関の意識ではあるが、それらが1) や2) に配慮して授業を行って、教材を提供して、シラバスを作成している（漢字の指導要領の作成には現場の教員も参画していると思う）ことを考えると、3) について比較することにより、より広く日本とスロベニアの漢字教育の違いを明らかにすることが出来ると思います。

これらの点を調査するために、七月の始めごろに附属小学校の授業で参観をしてきました。また、先週二年生の担当の先生、大島先生に対面インタビューさせていただきました。日本とスロベニアの比較をしたかったので、スロベニアの方の情報も必要でした。従って、スロベニアのHme l j a k先生にメールでアンケートをさせていただきました。

### 3. スロベニアと日本の漢字授業への洞察

私の研究は多くなれば少なかれ先生方の認識や意見に基づいています。

#### 3.1 日本の小学校：二年生、三年生と五年生の漢字授業の参観

群馬大学附属小学校で二年生と三年生の授業を参観し、先生の個人差があることにも気づいたが、基本的には授業の進め方などは同じだった。五年生では低学年と比べたら、異なった点がいくつかあった。従って、低学年と五年生の授業は実際にどのように行われているのかを報告したいと思う。

##### 第二学年

あ) 先生は黒板で文字の書き込みのため特別なネットを使いながら、漢字を書く。

い) 児童は先生とともに漢字の音読みと訓読みを大声で読む。

う) 一人ひとり児童は個人的な意見として、注意しないといけないところを黒板で見せる。

え) 先生はもう一度漢字を書いて、間違いやすいところに注意する

お) 空書き：児童は先生とともに人差し指で空気に漢字の画数を描いて数える。

(写真1)



写真1 空書き

か) 先生とともに漢字のほかの使い方を大声で言う。

き) 一分の内に漢字を教科書に書く。先生は生徒の進捗状況を観察している。

### 第三学年

あ) 写真通りに（写真2）、先生は様々な色のチョークを使って、漢字を部分に分けて、黒板に書く。

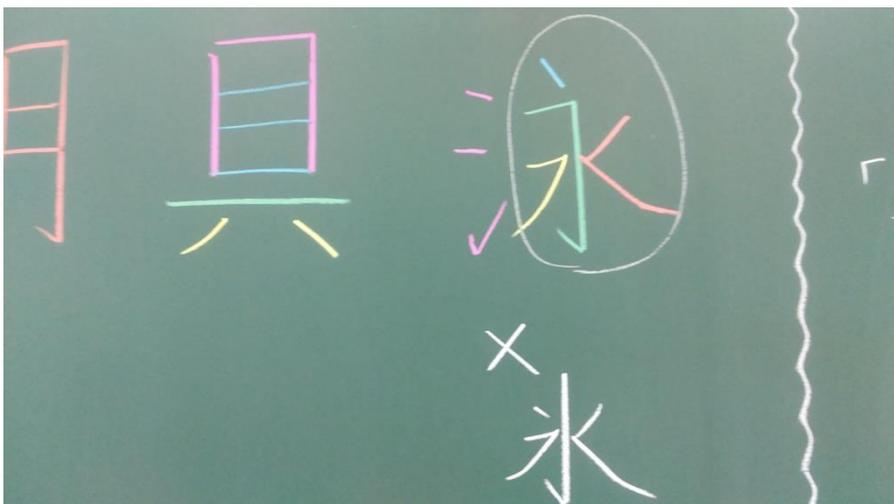


写真2 漢字の色分け

い) 学生は間違いやすいところに注意されている。

う) 教科書を見ながら、生徒達は先生とともに漢字の音読みと訓読みと様々な使い方を大声で読む。

え) 空書き：先生がもう一度黒版に漢字を書きながら、児童は人差し指で空気に漢字の画数を描いて数える。

お) 児童たちは自分で何回も漢字を教科書に書く。

か) 最後に、教科書のテキストに基づいて、これまで漢字を使いながら、自分の架空の物語をノートに書く。

つまり、二年と三年の先生の指導を通じて、児童は漢字を学習することになる。

### 第五学年

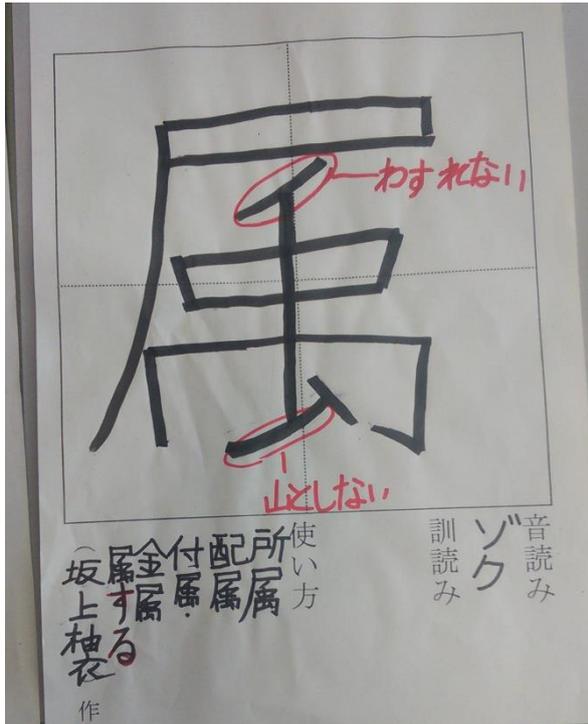
五年生を教えるためのアプローチは低学年と異なっている。

あ) 生徒は自宅で漢字に関する調べて、その後、描かれた文字を学校に持って来る(写真3)。

い) 授業で漢字を発表する：音読み、訓読み、他の使い方、注意しなければならないところなど。

う) 皆は空書きする。

え) 教科書に紹介された漢字の練習させて、課題を終わらせる。



三年生の授業と比べたら、先生の指導はそのよに強くない。

低学年の授業では先ほど言った通りに「個人差があることにも気づいたが、基本的には授業の進め方などは同じだった」から、教師はある程度まで自由化があるということを言える。

### 小学校の低学年における漢字教育目標

学習指導要領によると、書くことに関する一年生の目標は：

- 「身近な事がらについて簡単な文章を書くことが出来るようにする」
- 「文字を丁寧に書くことが出来るようにする」。

言葉に関する次の事項について指導する。

- 平仮名を書くこと
- カタカナのだいたいを書くこと
- 学年別漢字配当表の第一学年に配当されている漢字を主として、40字くらいの漢字を書くこと
- 字のなかでの漢字の使い方がわかること。

書写の指導についても指導する。

- 文字の形に注意して、筆順に従って丁寧に書くこと
- 点画に気をつけて文字を正しく書くこと。（ページ12-13、学習指導要領<sup>1</sup>）

インタビューの後、学習指導要領を読んだら、先生が言ったことをもっと理解できた。先生達は結構自由なんだけど、ある程度ルールが書かれている。

### 3.2 スロベニアの大学の第一学年

あ) 先生は白板に漢字を書く。

い) 漢字の意味を言う。

う) 部首や筆順に注意する。

え) 音読みと訓読みについて教えながら、漢字の使い方を言う

スロベニアでは漢字の授業が最初の学年に行われる。先生の指導と教科書によって、大学生は学習する。その後の学年は自分で漢字を勉強しなければならない。

### 4. 日本の小学校、スロベニアの大学の教員への私の予測とインタビューの分析

これから、私の予測とアンケートとインタビューの分析についてです。インタビューとアンケートの質問は9個だった。だが、私は研究したいと思ったのは、違いがある所だ。なので、今回の研究では違いと私の予測が非常に顕著である質問を中心に、相違点の分析を導入したいと思う（インタビューを読みたい場合には、最後の所に追加されている）。

- 1) スロベニアの初級学習者と日本の一と二年生が習得する漢字リスト、具体的には、それぞれが最初に学ぶ240文字を比べたところ、差があること気づきました。スロベニアの初級者が学習する3分の1の文字は日本では小学校の中高学年になってから習得します。この違いがなぜ生じているのかに興味を持ちました。

---

<sup>1</sup> 昭和43年、学習指導要領 [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/kou/kou.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/kou/kou.pdf)

添付した漢字シラバスの表をご覧くださいから、もし、日本の小学校低学年で、スロベニアの漢字リストやシラバスを使うとどのような問題（やりにくさ、定着の難しさなど）が生じると思うかについてお答えください。

#### 日本でのインタビュー

- ▶ スロベニアでは日本語で話すことが日本語教育の第一の目標とはされていないのではないか。漢字の意味のまとまりごとに出てきているように思うが、これだと文章の中で出てきた漢字を学習するという形ではない感じがする。今日本でやっている英語の外国語活動の、いわゆる、単語の配列に非常に良く似ている。
- ▶ 一方、日本では実際に使用する漢字と学習する漢字を一致させないといけないので、スロベニアとは異なってきたと思う。
- ▶ 画数の少ないものや構造の簡単な字であることは最初に学習する漢字を選ぶ際に重要である。ただ、日常使用頻度、よく使う漢字かどうかということも要素としてある。
- ▶ ただし、算数や理科の教科書には出てくるが、国語ではまだ習っていない字があったりするので、それは少し問題になっている。

#### スロベニアでのアンケート

- ▶ 外国語としての日本語の学生のための文字をより効率的に漢字リストを設定することができる。非漢字圏の日本語学習者と日本語母語話者が漢字を比べたら、違いがある：
  - 1) 日本人の子供達は学校に入る前に数千の言葉はもう知っている（低学年でその言葉を使って漢字を学習することを含んで）。
  - 2) スロベニアの場合には、学習者は日本語授業では（外国語として）語彙も漢字も学習する必要があるので、漢字の導入の仕方として最も簡単なのはもう勉強した漢字の言葉を導入することである。
  - 3) もう一つは年齢の違い：スロベニアの日本語学習者はもう大人なので、一年を完成したら、大人向けの文章を読める。
- ▶ 教育漢字リストを使用する際の利点は、主に、この配列に結合している物質の多さである
- ▶ 欠点は、生徒たちが分からないやおそらく長い時期まだ使わない言葉の漢字（弓など）が出現することと日常で使用される単語の文字の不足である。

同じことをスロベニアでもある一教科書と漢字リストの本は合っていない！！

私の最初の予測と分析：

私は最初思ったのは、日本では子供は生まれているから、日本語を母語として勉強して行く。しかも、子供だから、抽象的な言葉の意味は分からないので、単純な意味の漢字を先に導入している。また、スロベニアでは漢字を部分に分けて教えようとしていないというのはやりにくさを表す。

分析

スロベニアのHme l j a k先生が言った通りに、「スロベニアの日本語学習者はもう大人」ということは感じられる。

私はこれが心理とつながっていると思う。ピアジェによって青年期の初めの頃、言い換えると12歳から14歳までの時、一生続く形式的、抽象的思考操作が可能になるという理論構築が行われてい (<http://www.moonover.jp/psy/piajet.htm>)。というのは、小学校の子供は学校に入ると6歳ぐらいで、抽象的な言葉の意味は想像できない。だから、日本の単純な意味の漢字を先に導入しているかもしれない。スロベニアの漢字リストを見ると、初級者は学習する3分の1の文字は日本では小学校の中高学年や中学校<sup>2</sup>になってから習得する。

または、文化とのつながりがあると思う。例えば、桜の漢字と言えば、スロベニアでは漢字リストを見ると早く学ぶ（最初の240漢字内；写真4）。一方、日本では5年生になってから、勉強する（漢字リストの順としては640文字から825文字内）。私は、これは文化の違いによるものであると思う。日本に関する外国人のイメージの一つとしては桜の木である。一方、日本人の子どもにとってこれは木の種類として、おそらく難しい言葉かもしれない。

---

<sup>2</sup> 日本の学校で勉強するのは「常用漢字」という2136字の漢字リストだ。その中には「教育漢字」という小学校で勉強する1006字の漢字リストが入っている。その以外の漢字は小学校の後で勉強する。私が比較したスロベニアと日本の漢字リストでは「遅」（順番147）と「忙」（順番148）という二字がある。この二字は中学校で勉強する漢字である。（中学校の3年間で学習する漢字（1,130字） — <http://www.benricho.org/kanji/kyoikukanji/narau-gakunen.html>）

肉	5 6	第二年生	
林	5 7	第一年生	
森	5 8	第一年生	
休	5 9	第一年生	
体	6 0	第二年生	
茶	6 1	第二年生	
酒	6 2	第三年生	②
<b>桜</b>	<b>6 3</b>	<b>第五年生</b>	<b>③</b>
花	6 4	第一年生	
白	6 5	第一年生	
黒	6 6	第二年生	
赤	6 7	第一年生	
青	6 8	第一年生	
町	6 9	第一年生	
物	7 0	第三年生	④

写真4 スロベニアと日本の漢字リストの比較

- 2) 漢字は国語のテキストを読むのと平行して、提出順に学ぶのが好ましいとお考えですか、あるいは、カテゴリー別に提示して、関連のあるものをまとめて学んで行く方がいいとお考えですか？或いは、漢字のテキストを別途使って、徐々に漢字を導入することが望ましいとお考えですか？

日本：

- 漢字は文章の中で使えて、読み書きが出来て、初めて使えるものという認識があり、文章の中で使うことをかなり重視している
- そのため、テキストと平行して提出順に学ぶことは重要である。
- カテゴリー別に覚えたものが、その後、文章を書いたり読んだりする中で活用されないと忘れられてしまう

スロベニア：

- 漢字は国語のテキストを読むのと平行して、提出順に学ぶこと
- カテゴリー別に提示して、関連のあるものをまとめて学んで行く方
- 理由は話し言葉と漢字を学ぶ大学生にとって、漢字の学習と語彙の学習を接続する必要がある。だが、形に関係のない多量の文字を思えることは困難であるため、文字の導入する際に、大学生が同時に同じデザイン（グラフィック）要素が含まれているいくつかの文字を学ぶような順序を組み上げることが良い。文字を知った後、彼らはテキストに繰り返して遭遇することで、さらに読書を強化するのが良い。

私の予測と分析：

最初の所で思ったのは、スロベニアでは漢字のテキストを別途使って、徐々に漢字を導入するということである。一方、日本ではカテゴリ別に提示して、関連のあるものをまとめて学んで行くということである。

漢字は授業の一環で、国語の授業の一部の時間を使うことが望ましいですか？、或いは、漢字のみの授業を行うことが必要だと感じていますか。

この質問では、私の予測どおりに、一番大きな違いは、日本では国語の授業で漢字の学習が行っているが、スロベニアでは漢字のみの授業がある。大島先生が言ったように「日本の国語の授業は、「話す聞くという領域」と「文書を書く領域」、「読む領域」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」という3領域1事項からなる」ということだ。スロベニアでは、日本語は国語ではなくて、第三またはそれ以降の外国語なので、漢字のみの授業が不可欠である。

3) 漢字学習で学習者に理解して欲しいことは何ですか。

( ) 書けるようになる

思ったとおりに、両国では書けるようになって欲しい、スロベニアでは特に欲しい。だが、大島先生が言ったとおりに「これから先アイシーティー (ICT-information technology) も非常に発達して来るので、手で漢字を書くのはもしかしたら少なくなってくると思う…」、日本だけではなく、スロベニアでも一学年の後、漢字のみの授業が終わるので、書けるかどうかもう確認しないということになる。

( ) 偏と旁

私の経験では、スロベニアでは結構重視されていますが、ただ漢字を見て、何が偏で何が旁かということを理解することに主眼を置いているように思います。部首に

ついて勉強するしますが、部首によって意味が分かるという点はあまり教えていないと思いました。

インタビューやアンケートの結果から、日本ではこの点が非常に重要だとわかりました。編と旁を理解することで、その漢字がどういう意味を持っているのかということに非常に気づきやすいということがあるからです。漢字の成り立ちを理解するために重要である。

スロベニアの先生の回答は私が予測したとおりだった。

#### ( ) 音読みと訓読みの違い

私の予測では、両国では理解して欲しいと思うと考えました。

しかし、実際には、日本ではこれは丸暗記なので、あまり重要とは考えません。

例えば、「肉」という漢字がある。この漢字の読み方は音読み、それとも訓読みだろうか。実は、これは音読みである。私は分からなかった。附属小学校の先生も大学生になるまでよく知らなかった。訓読みと音読みの区別は非常に難しい。だが、スロベニアでは区別するのが非常に重要である。

#### ( ) きれいな字を書くこと

私は思ったのはスロベニアではあまりこだわってなく、日本ではそのための練習ノートがあるから、重要だと思った。

答えは次の通りだった：日本ではコミュニケーションツールなので、相手に分かってもらえるということが重要で、きれいな字を書くことは重要である。一方、スロベニアでは読みやすく文字を書けば、大丈夫だ。というのは、私の予測どおりに、スロベニアではあまり非常ではない。そのうえに、スロベニアではマイクロソフト・ワードを結構使うので、字際を書けた文字はあまり重要ではない。

#### ( ) 漢和辞典で調べられるようになること

私が思ったところはスロベニアでは一回は説明があり、ある程度重要だと考えていますが、日本ではあまり重要ではない。

けれども、インタビューによると、日本では漢和辞典で調べられるようになることはぜひ教えたいことの一つである。全部の漢字を覚えるのは不可能なので、わからないときに調べられることが重要だと考える。

スロベニアでは「重要である」という答えをもらった。しかし、スロベニアの授業では漢和辞典を使用する時の説明があるのだが、そのあとは授業ではあまり使いません。だから、そのように重要ではないと思う。

### ( ) その漢字を使った語彙の習得

私の予測は両国では重要だというものだった。

小学校の先生の説明は私の予測を超えた。日本では漢字自体が語彙の習得に非常に近くて、習得を増やすために漢字があるぐらいのつもりでやるそう。というのは、運用力が重視されている。つまり、漢字を覚えたら、使わなければなりません。そのために日本の国語の授業では「文章を書く領域」がある。

逆にスロベニアでは漢字と語彙は重要であるが、別で学んで、書くためだけの授業がない。

ここでは環境の違いが強く感じられます。スロベニアでは、日本語が外国語として言語の言葉も漢字も同時に勉強する違いがあるし、言葉や漢字を使う機会も非常に少ないです。

### ( ) 象形文字・指事文字・会意文字・形声文字の違いを理解する

日本：

- ▶ 4つの違いがあるんだということは当然学習の中ではやるが、子供達はこれに関しては興味を持って取り組めないようだ。

まとめ：

ここにあることで、実はいらぬものはない。すべて関連性があり、当然全部やる。ただし、優先順位はあり、音読みと訓読みや、止めやハネの違いは比較的軽視している。

スロベニア：

- 重要である

予測された結果：

- スロベニアでは理解して欲しいが、日本ではあまりそういうことはない。

#### 4) 漢字を教える際に、重要視していることは何ですか。

私が思ったのは、学習のやり方と習得が出来るように色々なことをやるのが重要だということである。しかし、私は一番大切なことを見落としてしまった（気づかなかった）。

日本では一番重要視しているのは漢字に対する関心です。関心が高まれば子供達はある程度自分で学習欲を持って、学習していきます。関心を持たせることを心がけている。同じく、スロベニアでは動機（やる気）が一番大切である。文字を学ぶことが日本の学習の中で最も時間のかかる作業なので、学生は学習で主張するように奨励するための方法を見つけることは非常に重要である。学生達は興味を持つようになるための方法を見つけることは非常に重要である。

#### 5) 漢字の学習ストラテジーとして、どのようなものが好ましいと考えていますか？

- 私が予測したことは次だ：外国語としての日本語の学習者にとって漢字を覚えるのが難しい。もしかしたら、スロベニア（非漢字圏の国として）の漢字習得の困難の原因は学習ストラテジーに基づいているかもしれない。それについて調べてみたいと思った。
- **日本**：漢字を読むということ、声に出して読むということは非常に有効である。個人的に学習する際には、まず読んで、目で見、耳で聞いてというのは一つ有効な手立てである。後、画数を大きい声で言うことである。画数を唱えながら、書いて

みることで、その画数が自分の字が合っているかどうかということをチェックできる（形を間違っていて理解していないか等のチェックにも有効）。画数ということ、も一つは部分を意識できるように色に分けて書いているという工夫もある。Tle pol lah dodaš tisto iz psihološkega vidika k si najdlaa :D

部分で捉えることで漢字の意味もつかめるし、という効果がある。そういうふうにして覚えて行かないと漢字って丸暗記とすごくきつい（文字）だと思うので。

- スロベニア：先ほど並べているすべての学習ストラテジーは好ましい。さらに、文脈の中に文字を使用すること、日本語で書くこと、同様の形状を持つ文字発音、意味との統合（つなぎ）などが好ましい。

6) 実際に自分のクラスで取り入れているのはどれですか。

- 日本：ドリル、漢字を繰り返して書くこと、漢字を大きな声で読むこと、文章の中で漢字を読むこと、また書くということも意識させている。
- スロベニア：普段の授業では漢字を大きな声で読むこと、文章の中で漢字を読むことを取り入れている。または、ドリルと相互学習は練習を行われている授業で取り入れている。漢字を繰り返して書くこととフラッシュ・カードを使うことは宿題としてあげる。日記を書くことは部分的に取り入れている。その他は：書くこと、文脈で漢字を使うこと、類似の文字を比較して、違いを見つけることも取り入れている。
- 予測された結果：
  - a) ドリル（両国ではない）
  - b) 相互学習（日本）
  - c) 日記等を書く（両国ではない）
  - d) 漢字を繰り返して書く（日本）
  - e) 漢字を大きな声で読む（日本）
  - f) フラッシュ・カードでリズムよく学習させる（両国ではない）
  - g) 文章の中で漢字を読む（両国）

- スロベニアでは漢字を学習する時に、最初の学年では漢字と始めて触れ合うので、先生達は導入する時に、学生が書け、と読めるようになるのが好ましいと考えていると予想される。後の学年では読めるようになるのが好ましいと思う。最近の技術の開発のため、ほぼ皆はコンピューターを使うようになって、コンピューターが自動的に平仮名を漢字に変化する。従って、先生方も漢字を読めることが書けることより重要だと考える傾向があると思う。
- 一方、日本では小学校を通じて、国語の授業では先生方は漢字を教授している。読めることだけではなく、生徒達は書けるようになるのが好ましいと考えているはずだ。漢字を教える際に、漢字を全体的に理解できるようになるのが必要だと考え傾向があると思う。

## 5. 自ら進んで漢字を学ぶ方法

ここで、もう一つのこと述べたい。生徒達が積極的に自ら進んで漢字を学ぶことが好ましい。従って、私の研究、言い換えると、私のインタビューを通じて、先生達は色々な方法を使って、そのような能力を育てているということが、非常に明らかになった。大島先生が言ったとおりにいくつかの自ら進んで漢字を学ぶような能力を育つ方法を述べた：

- 「空書き」はその中の一つである。口で唱えながら、空気に書いて、書き順を覚えさせるという方法である。そのほかは「口唱法」である。
- もう一つは「新しい漢字、一字ずつについての理解を深め、習得させる指導」という方法である。文字指導の基本的な事項（意味を知る、読める、使える、書ける）の習得を組み込まれるようにする。
  - ア) 音読みの読み（質問4）の「音読みと訓読みの違い」で大島先生が説明した通りに行っている）
  - イ) 語句の意味（質問4）の「その漢字を使った語彙の習得」)
  - ウ) 構造（部首については質問4）の「偏と旁」で説明されている・画数は「空書き」という方法を使って、教える・字源については「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」という事項で習うだろう)
  - エ) 書く（筆順については大島先生のインタビューの質問4）の「漢字の筆順」で説明されている・字形については質問4）の「きれいな漢字を書くこと」で説明されている)

オ) 熟語、同音異字、反対語、類義

- 児童したい事柄に応じて、ア～オの項目を考えた上で、作成することが大事
- 「漢字を楽しく教えるための工夫」はその中の一つである。漢字を覚えるのが大変なので、漢字力の向上には楽しい学習環境を作り出すことが大切である。

色々な方法を使いながら、生徒達の漢字に持つ興味によって自分で学ぶやる気も高める。(http://www.iie.hiroshima-u.ac.jp/center/activities/japanese/pdf/26th/26th%288-16%29.pdf)

## 6. 今回研究で明らかになったこと

研究方法で述べたように、漢字教育の違いは学習者の年齢、生活環境（文化）と教師の意識によっている。だから、外国語としての日本語を教える際には、外国人に合わせて過程を設定する必要があります。ですが、私の調査した結果から考えると、日本の学習システムを観察することで、スロベニアの漢字教育に参考になる点はあるというように思っています。それぞれの国の環境の違いが大きい点だと思いますし、スロベニアの学習者と日本の学習者の漢字についての認識が違います。大島先生は学習ストラテジーについて次のように言っていました：「部分で捉えることで漢字の意味もつかめるし、という効果があります。そういうふうにして覚えて行かないと漢字って丸暗記とすごくきついだと思います」。スロベニアと比べたら、教育が違うので、認識も違います。

また、学習者の年齢も違いますが、日本の漢字教育で注意している点で、スロベニアではほとんど考慮されていないところも多々あると感じました。

もう一つ、非常に驚いたことは、先生方は漢字学習に関する関心ややる気は一番大切だと答えていたことです。私はこの点を見落としていました。学習者は日本でもスロベニアでも面白くないと思ったら、興味がなくなって、勉強の効果が落ちてしまいます。

## 7. 今後の課題

- インタビューを複数名に実施できませんでした。今回は質的な調査を行ったと考えているので、これでも大きな問題は無いと思いますが、個人的な意見でないこ

とを示す必要もあると感じています。今後より多くの方にインタビューやアンケートを実施できればと考えています。

— スロベニアの先生には、インタビューができずアンケートにしました。詳細なインタビューが出来ませんでした。

— 学習者へのインタビュー、あるいはアンケートが実施できませんでした。教師の意識が学習者の漢字学習にどのような影響を与えているかは興味深い問題だと思います。

今回の研究を通じて、日本人が漢字の字形をどのように認識しているのか、認知的な問題にも興味を持ちました。機会があれば、この点も調査してみたいと考えています。

## 8. 参考文献

- <http://www.moonover.jp/psy/piajet.htm>
- <http://www.benricho.org/kanji/kyoikukanji/narau-gakunen.html>
- [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/kou/kou.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/kou/kou.pdf)
- <http://www.iie.hiroshima-u.ac.jp/center/activities/japanese/pdf/26th/26th%288-16%29.pdf>